

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	アルツハイマー病(AD)およびパーキンソン病(PD)の創薬標的検証を目的とした病理学および生化学的解析
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	本学脳研究所にて保管されている、剖検例（非精神神経疾患、アルツハイマー病、パーキンソン病の患者さん）から採取された脳組織（パラフィン包埋組織・凍結組織）を検索対象とします。研究対象は、病理解剖時にご遺族からの研究利用の承諾をいただいた患者さんに限ります。 【選択基準】 2001 年以降現在までに新潟大学脳研究所病理学分野で病理解剖により非精神神経疾患またはアルツハイマー病、パーキンソン病と診断され、脳組織の研究利用の承諾をいただいている患者さんが対象です。
③概要	新潟大学と武田薬品工業の共同研究により、アルツハイマー病（AD）およびパーキンソン病（PD）の脳組織を用いて、老化関連マーカーおよび新規創薬の標的分子の変化を組織学的・生化学的に解析し、疾患ごとや脳部位・細胞種ごとに分子発現変化を明らかにすることを目的としています。
④申請番号	2024-0102
⑤研究の目的・意義	超高齢化社会を迎え、認知症をはじめとした神経変性疾患患者の急増は深刻な社会問題となっています。 AD を含む様々な神経変性疾患で脳内ミクログリアの異常が報告されており、病態との関連が示唆されています。家族性 AD 細胞モデルではミクログリア表現型異常や、選択的なフェロトーシスが認められています。ミクログリア細胞死のメカニズムとしてオートファジー異常の関与が明らかとなりました。 以上より本研究では、AD の患者さんの脳組織を用いて、神経保護に関する創薬ターゲットの妥当性検証を行うことを目的とします。 1) 免疫組織染色： AD・PD の患者さんおよび対照患者さんのサンプルを用いて、選択分子の染色を実施し、疾患脳におけるミクログリア老化および、脳老化への関与について検討します。 2) 凍結組織サンプル分析： AD・PD の患者さんおよび対照患者さんの組織を用いて、選択分子のタンパク発現レベルを調べ、疾患群ごとの差異について検討します。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2025 年 5 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び 利用方法（他の機関へ 提供される場合はその	武田薬品工業株式会社リサーチニューロサイエンス創薬ユニットに試料及び付随する臨床情報（年齢、性別、疾患名、罹病期間、中枢病理所見）を個人の特定不能な状態で提供します。AD や PD 治療薬の開発に役立て

方法を含む。)	ます。提供された検体の一部は、アプライドメディカルリサーチ社に解析委託試験に供する可能性があります。
⑧利用または提供する情報の項目	病理解剖にて採取した脳組織（パラフィン包埋及び凍結）、臨床情報（年齢、性別、疾患名、罹病期間、中枢病理所見）
⑨利用する者の範囲	新潟大学脳研究所病理学分野及び武田薬品工業リサーチニューロサイエンス創薬ユニット 試料等の提供外部機関：アクセリード、新日本科学、株式会社 N Lab、株式会社ティー・エヌ・テクノス、シミックファーマサイエンス、株式会社共同病理、福島セルファクトリー株式会社
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学脳研究所病理学分野 柿田明美 武田薬品工業株式会社リサーチニューロサイエンス創薬ユニット 古澤 誠
⑪お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学脳研究所病理学分野 氏名：柿田明美 Tel：025-227-0673 E-mail： kakita@bri.niigata-u.ac.jp